

# 食品化学新聞

とうもろこしから



**ライテス**  
第2世代ポリデキストロース

DANISCO CULTOR ダニスコカルター ジャパン 株式会社  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-1 TEL 03-5381-3910

## キチン・キトサンの 展望とカニ供養祭

### 食塩

三月二日、米子市唐生温泉のホテトサンの科学」を何十冊も買って、第二回カニ報ルで第二回カニ報知って、一体どんな会社だろうと

チン・キトサンシンポジウムが開催された。キチン・キトサンを健康食品として今日の隆盛ならしめた、いわば生みの親ともいふべき富士バイオの亀井武司社長の主催で神事が厳かに執り行われた。シンポジウムにはキチン・キトサン研究の第一人者である平野茂博・元鳥取大学農学部教授、奥田拓道・愛媛大学医学部教授など、そのうたるメンバーが顔を揃えた。韓国からも二五名が参加し、総勢二〇〇名を超える盛会だった。思えばキチン・キトサンがこういう展開で日本中に広まるという事は、当時夢想だにもしなかった。今から一一年前にかのぼる。小社が日本で初めて出版した月刊

た動物の食物連鎖のなかで、キチン・キトサンがどのように位置づけられているのか考察している。そして、人間自身キチン質をどうとらえてきたか、農業・牧畜業、水産業にもキチン質が忘れられた。その結果、病弱な家畜、魚の奇形となって、人間にはお返ってきた。地球上に生息する生物には、自然のバランスを崩さなければ健康に生きていける権利が保証されている。自然のバランスとは人間以外の自然のみをさすのではなく、人間自身の内なるバランスもさしている。食事のバランスの崩れは成人病の増加につながる。特に心臓など循環器系の疾病、がん、エイズなど現代病の多くはキチン質不足に起因しており、食物連鎖とはすなわちキチン質連鎖だと結んでいる。何と示唆に富んだ内容だろうか。

野で急速な発展を見せたのも、亀井社長の「今の時代はこれしかない」という頑固なほどの信念と熱情に他ならなかった。今、キチン・キトサンの摂取は免疫力を高め、自然治癒力を増し、皮膚障害・便秘・肥満・不定愁訴・高血圧・肝炎・糖尿病・がんをも克服することが、奥田教授らの研究の結果明らかになった。平野教授はキチン・キトサンは生態系に非常に優しい、同時に生態系を活性化する働きがあり、近い将来、繊維などの分野で大きな産業になると示唆している。パネルディス・カッションで、福地知行氏(静岡県立大学薬学部名誉教授)の「私は二十世紀の当初に本場の意味でのキチン・キトサンの花が開くのではないかと気がしまし」といふ言葉に素直に頷くことが出来た。キチン・キトサン研究の生みの親である平野教授、医学分野の第一人者である奥田教授、そして健康食品への実用化の道を開いた亀井社長三人の先駆者らしいを馳せることができて有意義なカニ供養祭であった。